

場面提供② 『緊急虐待防止委員会』

【登場人物】4名（+2名）※二重線が引かれている人物は1回目のシナリオに登場

・Dさん（入職5年目・虐待防止委員）：利用者の権利が何より大事
利用者第一を念頭に支援を行っている。まだまだ自信はないが、中堅職員としての自覚を持ち始めている。

・Eさん（虐待防止責任者・サビ管）：ルール（法律）に従って進めていくことが何より大事

ちょっとクールな正義漢。サビ管としての仕事はきっちり。虐待防止責任者として積極的に外部への研修に参加している。意識が高い。知識も豊富で、国や法律が求めている虐待対応を理解している。委員会の設置、研修の実施、虐待対応フローチャート作成など事業所内で中心的に進めてきた。

・Cさん（入職10年目、指導する立場）：職員や現場を守ることが何より大事

自分が現場（事業所の日課）を回しているという自負、この事業所に対する想いは強い。Bさん（職員）の教育係として、Bさん（職員）を守ろうとする。虐待防止（利用者の権利）を大切にしないといけないのもわかるけど、現場（職員）のことも考えてほしいと思っている。

・Fさん（施設長）：事業所の運営継続が何より大事

＜研修受講者と同じ立場＞

施設長になって5年。これまで大きなトラブルもなく、もちろん虐待通報もすることなく、無難に事業所運営をしてきた。低姿勢で、物腰しがやわらかい。職員からは何でも話しやすい存在。通報したらどうなるか不安、世間体が気になる、大ごとになってしまうのではないかと、事業所の継続はできるのか。

※Bさん（入職半年、新任職員）：＜この会議には参加せず＞

Aさんには本当にひどいことをしてしまったと反省している。悪気はなかった。Aさんのことを考え、Aさんのために支援をしていた。でも今考えると、結果的には不適切な支援だったと思っている。これから、どうになってしまうのかとても不安。

※Aさん（利用者）：＜この会議には参加せず＞

Bさんに対しては「恐かった」、「悲しい」と話している。元氣なく落ち込んでいる。

【シナリオ・台本】

職員や利用者からの相談を受けて、虐待防止責任者である E さんは、法人の虐待対応フローチャートに沿って、緊急の虐待防止委員会を開催することとした。

- E : これより緊急の虐待防止委員会を開催します。先程、職員や利用者より虐待ではないかという相談がありました。虐待対応フローチャートに沿って事業所として対応していきたいと思います。私はこの場面を見ていなかったのですが、簡単に状況を確認したところ、今日の昼食の時、BさんがAさんに対して、怒鳴りつけて、無理やり車イスを押して作業室に連れていくという行為がありました。Bさんもこの行為について反省して落ち込んでいましたが…この行為は、私も不適切な支援、虐待に当たるのではないかと思います。虐待の疑いを感じたら通報義務が生じるので、詳しい事実確認は後にして、とりあえず早急に施設長であるFさんから〇〇市の虐待防止権利擁護センターに通報してもらおうと思います。
- C : （食い気味に）ちょっといいですか。私も現場にいましたが、Aさんはなかなか食事をとらず、Bさんは苦勞してました。まだ経験が少ない中で必死にがんばってました。そもそもこれは虐待なんですか？不適切な支援だったとは思いますが、これで虐待だ、通報だと言われてしまったら、支援ができなくなってしまいます。他の利用者もいますし、集団生活なので、作業に参加してもらわないと困るんで。特別扱いはいけませんよ。どうすればいいんですか。
- F : （Cに同調しながら）確かに…。怒鳴るのはよくなかったけれど、いきなり通報っていうのはどうだろう。Bさんもこんなことをするなんて初めてだし、反省しているようだしね。今回は、自分たちで事実確認をして、二度と起こらないように原因を考え、対応策も考えればいいんじゃないか。研修でもそうやって取り組んでいるからね。
- E : Bさんを思うとつらいですが、虐待かどうかの判断は行政がすることになってます。事実確認も行政がします。自分たちだけで終結するということは、組織内での隠蔽だと思われてしまいます。
- C : （少し感情的に）隠蔽だなんて。Bさんはショックを受けてます。この件でやめてしまったらどうするんですか。それに、AさんはBさんに暴力を振るったんですよ。利用者から職員への虐待はどうなるんですか。問題にならないんですか。

しばらく沈黙があって

- F : いや、これまでうちの事業所では通報したことが無かったから、もし通報したら、この事業所はどうなってしまうだろうと不安がある。他の利用者や家族のこともあるし、世間の目というものもあるし、正直あまり大ごとにはしたくないというか…。
- E : 私だっていろいろ思うところはありますけど、通報は義務なんです。もし今回、通報しなかったら、次に同じような事案があった場合も通報しないことになってしまいます。事実確認をしたときに、以前通報しなかったことがわかってしまったら、事業所内で隠蔽していたと思われるってしまいます。外部の研修でも強く言われました。
- F : うーん、…。(悩む、迷う)
- E : これを OK にしていたら、どんどんエスカレートする可能性があります。通報しなかったらもっと大変なことになってしまいます。B さんや事業所を守る上でも、通報は必要です。
- D : …ちょっと…いいですか。事業所も、B さんも他の職員ももちろん大事なのですが、やはり今回は利用者である A さんへの虐待です。事業所の職員として、利用者への権利侵害、きちんと誠意をもって対応しないといけないのかなと思います。
- F : …わかった、そうだな…。(納得する) よし、私から〇〇市の虐待防止権利擁護センターに通報しよう。〇〇市の指示に従って対応していこう。
- C : B さんはどうなるんですか。あんまりじゃないですか。一生懸命やっていたのに。
- E : 今回の件が起きてしまったのは、B さんだけの問題ではなく、事業所全体の問題にしないといけないと思います。通報したらおしまいではなく、こんなつらいことが二度と起きないように、事業所として原因究明と再発防止策を検討していく必要があると思います。
- D : それと、まず、A さんや A さんの家族にも謝罪しないといけないと思います。
- F : この後、A さんの自宅に行って謝罪してきます。他の家族にも、緊急家族会を開いて説明する必要がある…理事会もだな。
- C : うーん…。(納得できないような表情)
- F : ハァー (ため息をつく)。こうなると、本当に大変なことになってしまっただなあ…。(しみじみ)

- E : きちんに対応しないと。通報しないで済ませることはできません。
F : よし、きちんと通報して、事業所として誠意をもって対応しよう。みんな協力を頼みます。

施設長が市の虐待防止権利擁護センターに通報した。

その後、市の職員が来所、全職員を対象に聞きとり調査を行った。

Eさんを中心に、事業所として原因究明と再発防止のための検討を行い、報告書を作成した。

施設長は、報告書を市役所に持参した。

また、臨時の家族会、理事会を開き、家族や理事に説明、謝罪した。

振り返り

緊急虐待防止委員会を通して感じたこと 感想の共有、意見交換

- ・そもそも1回目のグループワークの中で通報という意見は出たか
- ・それぞれの視点に立って考える

DさんやEさんの視点

CさんやFさんの視点

※特に同じ立場である施設長Fさんの視点を中心に

- ・もし通報しなかったら、この事業所、職員、利用者はどうなるのかなど